

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4677100101号		
法人名	社会福祉法人 以和貴会		
事業所名	老人グループホーム けやき		
所在地	鹿児島県 鹿屋市 串良町 細山田 5902番地 3 (電 話) 0994-62-2430		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年5月26日	評価確定日	平成21年6月6日

【情報提供票より】(平成21年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年 8 月 9 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人	非常勤 0 人 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋	造り
	1 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	4,500 円
敷 金	有 (円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要 (4 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	74 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かのや東病院・宮路胃腸科外科・桜ヶ丘病院・池田歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然な環境に囲まれ、のんびりとした雰囲気の中で、利用者のペースを尊重したケアを行っている。年間を通して、花見やレクリエーション・夏祭り・クリスマス会・みかん狩りなどを計画し、入居者は住民と触れ合う機会が多い。隣接にある法人関連施設の医療連携体制や夜間の夜勤者と宿直者2名の勤務体制や看護師の配置など、安全を重視するホームとして、入居者や家族の安心感・信頼感となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを作成し、運営推進会議や家族からの意見収集については工夫して改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	管理者は職員に評価について説明し、用紙を配布し会議等で話し合った。自己評価は良好で、今後取り組んでいきたい項目など具体的な意見はなかったが、評価をサービスの質向上に活かそうと取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	定期的に開催し、利用者の日常の様子や行事等の報告を行い、避難訓練について、地域消防団よりアドバイスをもらい、事業所の改善点を話し合っており、サービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	重要事項説明書に苦情・相談の受付担当者・第三者委員・行政等について明記し、説明をしている。運営推進会議に家族代表の参加や行事の後に家族会を開催する等、意見や苦情を聴く機会を設け、運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の小組合に加入し、奉仕作業や花見など自治会行事に参加している。保育園を訪問したり、中学生の体験学習の受け入れ、法人主催の夏祭りに地域住民を招待するなど地域の人々と交流することに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で、地域密着型サービスとしての役割を考え、事業所の特性を取り入れた独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームのリビングの見やすいところに掲示し、採用時や会議の時に理念について話しており、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小組合に加入し、奉仕作業や花見など自治会行事に参加している。保育園を訪問したり、中学生の体験学習の受け入れ、法人主催の夏祭りに住民を招待するなど、地域の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に評価について説明し、用紙を配布し会議等で話し合い、全員で取り組んだ。外部評価後改善計画シートを作成し会議で検討するなど評価を活かす取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、利用者の日常の様子や行事の報告等行い、訓練について地域消防団よりアドバイスをもらうなど、事業所の改善点について話し合い、サービス向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	以和貴苑便りを直接持参したり、日頃よりホームについて相談・助言をもらっており、連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話で、利用者の様子や健康状態を報告したり、毎月のケアキ便りに利用者の様子を写真などで解りやすく掲載し送付している。また定期的に残高確認や通帳のコピーなど送付し、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、相談・苦情の受付担当者、第三者委員、行政等について明記し、説明している。運営推進会議への家族代表の参加や行事の後に家族会を開催する等、意見や苦情を聴く機会を設け、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係作りを重視し、常勤採用しており、やむを得ない異動の場合も、認知症介護に適した人材を配置し、離職を最小限に抑えるよう努め、利用者へのダメージに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時は法人で新人研修に取り組み、社会福祉協議会やグループホーム連絡協議会の研修等段階に応じて、交替で受講している。参加者は研修報告書を作成し研修内容を全職員で共有できている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会やセミナー・勉強会などに参加し、情報交換や交流を図っている。交流活動を通じてサービスの質向上に活かすように努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、見学や体験入所を勧めホームの雰囲気に徐々に馴染んでもらうよう工夫している。入居後も自宅訪問など家族と相談し、本人が安心して過ごせるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族同様の気持ちで接しており、一人ひとりの能力を大切に、料理や掃除、洗濯などの家事の他、梅酢作りや切干大根作りなど、利用者に教えてもらいながら、一緒に行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントや面会時の聞き取りなどで、利用者それぞれの思いや意向を把握するよう努めている。困難な方は表情や様子で本人本位で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議に家族にも参加してもらい、希望や意向を聴き、主治医や関係者の意見を参考に、職員と話し合い、利用者それぞれの介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に計画の見直しをしている。家族の希望や状態変化時は、担当者会議を開き、本人・家族その他関係者と話し合って、現状に即した計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしてい る	医療連携体制による24時間の健康管理や病院 受診・通院介助・自宅訪問・墓参りなどの外出 支援など、家族と相談しながら柔軟に支援して いる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や本人・家族の希望 する病院の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、で きるだけ早い段階から本人や家族等ならびにか かりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共 有している	入居時に終末期や重度化に向けたホームの指針 を文書化し、説明し同意を得ている。状態が変 化した場合は、本人・家族・主治医・その他関係 者と話し合い、希望に添った適切な支援をする ことを共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよう な言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱い をしていない	入居者の状況に配慮しながら、プライバシーの 確保に取り組み、言葉かけやトイレの開閉に工 夫が見られる。また守秘義務にも気をつけて対 応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆったりと過ごしていただきます」の理念を 掲げ、体調や希望に添って、起床や食事・散歩 など入居者のペースで支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を取り入れながら、調理の準備や後片付けなど一緒に行ない、食事を楽しめるよう支援している。嫌いな物やアレルギーなども把握し、個別に対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回午後からと決めているが、希望や体調に配慮して柔軟に対応している。拒否傾向の方や体調の悪い方には、清拭や足浴を支援することもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の整理や食事の準備・後片付けなどしてもらっている。リハビリ体操やレクリエーションなど工夫したり、ドライブや花見・みかん狩りなど、楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に配慮しながら、散歩や買い物などの外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の連携や見守りで利用者の様子や状態を把握して、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	警察・消防・行政への緊急時の対応は確保されている。定期的に避難訓練等を実施し、地域の小組合にも加入し、地域住民の協力体制も築かれている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が作成した献立を利用して、栄養バランス等に配慮している。食事や水分摂取量も記録し、刻み食など入居者の状態に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所や食堂・リビング・畳コーナーにテーブルやソファ・テレビなどが配置され、光や音にも配慮された居心地のよい共用空間である。仏壇や季節の花が家庭的な雰囲気を感じさせている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に洗面所とテーブル・椅子があり、プライバシーや家族と気兼ねなく過ごせるよう配慮している。家族の写真や人形など飾り、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。